

角永は、素材が芸術のために話すことを可能にします

Sheila Farr 著、シアトルタイムズ - ビジュアルアート

2003年1月17日 金曜日

竹柱の支柱、手作りの紙の束、木の幹の皮をむいて磨いたもの。これらは角永和夫の作品の原材料です。それらはまた、ほぼ同じ状態で、彼の完成品で

その魅力で人々を一掃する何か。それは光沢のある表面、半透明、そして何よりも、人々をガラスに引き寄せるあらゆる通過する光線で燃え上がる緑豊かな色です。

角永は、ガラスをそれ自体にするだけで、その決まり文句からガラスを解放します。彼は色や特殊効果を気にしません。彼は、フォームを作成する標準的な方法、吹きガラスのサーカスのような活動、またはスタニスラフリベンスキーとヤロスラヴァブリクトヴァーのチェコの偉大なチームが見事に使用した幾何学的成形プロセスを使用していません。

角永は単に材料を加熱して解放し、温度がその形状を決定できるようにします。彼は、溶融ガラスの細い流れを温めたレセプタクルキルンに注ぎ、重量が約1トンの

ハイブのような巨大なマウンドにゆっくりと積み上げます。ガラスが完全に固まるまでに数か月かかります、。

プロセスがうまくいかない場合、ガラスにひびが入ります。西洋の目から見れば、それは欠点だと考えられていると、Kucera Gallery マネージャーの Jena Scott は言う。

Kuceraのフロントギャラリーにある5つの作品はすべて、完璧な成功という西洋の概念に適合しています。それでも、アーティストはシリーズの他の彫刻のいくつ



角永和夫のグレッグクセラギャラリーでのショーは、彼の巨大なガラス彫刻に焦点を当てています。

もあります。ある意味、角永にとって、素材はメッセージです。今月は角永が二部構成の展覧会を開催します。ベルタウンのスマスペースで、禅の庭に相当する室内同等物を作成しました。自然の物体(木、紙、竹)を丁寧に操作し、意味のある配置をしています。彼のもう1つのショーはグレッグクセラギャラリーで、主にアーティストの巨大なガラス彫刻に焦点を当てています。すべての作品は崇拜的であり、まるでアニメのように崇拜されているようです。まるで角永がそれぞれの素材から神を見つけ、そっと明らかにすることに熱心でした。

ガラスが「魅惑的な」素材であることについての決まり文句があり、平凡なアーティストでさえもそれ自体で十分に魅了されます。

「ガラスと木」

角永のインスタレーション
午前10時30分～午後5時30分
火曜～土曜 2月1日まで
グレッグ・クセラギャラリーにて
、212 Third Ave. S.、シアトル
(206-624-0770)

かと同じくらい好きで、亀裂や欠陥があります。彼もそれらのショーを計画しています。スヤマスペースでは、角永にとってガラスと同じように他の素材も表現力があることが明らかになりました。彼が手を握ったとき材木の竹の巨大な茎や木の幹



スヤマスペースでは、角永和夫が禅の庭に相当する室内物を作った。自然の物体一木、紙、竹一丁寧に操作され、意味のある形で配置されています。

の板に、彼はそれを翻訳するほど芸術を作っているようには見えません。まるで彼は木の言葉を知っていて、私たちもそれを理解するのを手伝いたいと思っているようです。あるいは、それは言語ではなく、彼が同調している周波数なのかもしれません。作品はとてもシンプルなので、作るスキルが頭を悩ませることはありません。驚くべきことは、アーティストの受容性です。他に誰が紙をかなりの深さに積み重ね、それから単にその一端を完全なスライスに圧縮することを考えたでしょうか？

角永の作品はミニマリズムと比較されますが、そのカテゴリーは彼のしていることを完全には捉えていません。類似点はすべて表面上です。ミニマリズムは、アーティストの指示どおりに、凝縮された形式の純粋な表現のためにコンテンツをバイパスします。

角永の場合、彼は資料が彼に口述するのを許します。どちらのスタイルのアートメイキングも哲学に基づいていますが、ミニマリズムは知的運動です。角永の芸術は精神的なもののようにです。

スヤマスペースの学芸員であるベス・セラーズは、1980年代初頭にロサンゼルススペースギャラリーで初めてそれを目にして以来、角永の作品をフォロー

しています。オレゴン州アッシュランドのシュナイダー博物館で巡回展が行われていると聞いて、シアトルに作品を届ける方法を見つけられると考えました。彼女はショーの一部を取り上げることについてグレッグ・クーセラに話しました、そして彼は喜んで同意しました。角永は作品をインストールするためにシアトルにやって来た-それは彼がすることの本質的な部分である-そしてショーの Kucera 部分が下がるまでここにとどまる。

セラーズ氏によると、カドナガのアートメイキングに対する基本的なアプローチは、彼のキャリアを通じて一貫しているとのこと。「彼はシステムを設定し、自然な側面を引き継がせる」と彼女は言った。「彼は湿気がそれをするのを許します。ここすべての紙片は、空気がより乾燥しているソルトレイクアートセンター(ユタ州)に比べてはるかにふわふわになっています。丸太の亀裂はかなり開いていました。竹は割れるように開いています。

それは彼にとって継続的なプロセスのようなものです。ここから LA に行くとき、それは別の構成をとります。それは一種の非独占的のです。」

「純粋なフォーム」

彫刻

角永和夫

午前9時~午後5時

月曜~金曜

4月11日まで

スヤマスペースにて

2324 Second Ave.,

シアトル

(206-256-0809)

今回の共同展覧会は、世界各地で展覧会を開催したが、北西での角永による最初の露出である。1946年生まれ、彼は日本の金沢に住んでおり、メキシコ国立近代美術館の永久コレクションに携わっています。オランダの国立クレラー美術館、オランダ。U.C. サンタバーバラ美術館; と近代美術館、富山、日本、とりわけ。運が良ければ、ここにも

いくつかの作品が集まります。

番組のスヤマスペースの部分は「ピュアフォーム」と呼ばれています。はい、フォームはショーの主要な部分です。しかし、作品の質感、色、リズム、ハーモニクスを見逃すことはできません。オペラ歌手の声には色があり、角永の彫刻には音色があります。